

※ 論点整理については、本日の御意見等を反映し、事務局にて整理を行ったうえで、次回答申案の審議時に資料として再度配付いたします。※市長意見は提出前であるため、反映されていません。

答申案審議に向けた論点整理（たたき台）

〔（仮称）株式会社T & Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書〕
（株式会社T & Hエコみらい）

黒：事務局意見 ※ 委員意見なし

図書：方法書ページ

1 事業特性、地域特性

（1）事業特性

ア 本事業は、産業廃棄物処理業を営む株式会社タケエイと廃棄物焼却発電の導入実績がある日立造船株式会社の共同出資により設立された、株式会社T & Hエコみらいが市原市臨海部において廃棄物焼却施設を新設するもので、その1日当たりの処理能力は330トンである。

図書 2-1
2-2,2-11

イ 本施設では、株式会社タケエイが東京都、神奈川県、千葉県に有する産業廃棄物破碎選別施設から排出されるマテリアルリサイクルが困難な処理後廃棄物を主とし、その他関東圏内で発生する産業廃棄物を焼却処理するとともに、焼却により得られた熱エネルギーを発電や熱供給に最大限有効活用する計画である。

ウ 対象事業実施区域（以下「事業区域」）の隣接地では、同時期に株式会社タケエイの産業廃棄物破碎選別施設の建設が予定されている。

（2）地域特性

ア 事業区域は、市原市臨海部の工業専用地域に位置し、周辺には稼働中及び計画中の火力発電所が複数ある。（別添参照）

図書 3-10,
3-115
3-116

イ 事業区域及びその周辺は、全国的にも光化学スモッグ注意報の発令が多い地域であり、大気環境の一層の改善が必要となっている。

ウ 事業区域から南東約2キロメートルの国道を挟んだ内陸側には、住宅地のほか、地域住民に多く利用される運動公園や保育施設が存在している。

2 事業計画

全般

〔1〕事業計画の詳細な検討に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を収集し、最良の利用可能技術の導入を検討することにより、大気環境の負荷の低減や温室効果ガスの削減など、一層の環境影響の回避・低減に努めること。

図書 2-21

〔2〕煙突高さについて、設定根拠を明らかにし、環境保全の観点から十分な高さであることを説明すること。

3 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の方法

(1) 大気質

図書 5-39

〔ア〕施設の稼働に係る長期平均濃度予測について、煙源条件を排出ガス量の最大時における排出諸元としているが、取扱う産業廃棄物の種類が多様であり、混合割合によって排ガス量に変動が生じることを考慮し、有効煙突高が低くなる場合の予測及び評価も併せて行うこと。

図書 5-42

〔イ〕施設の稼働に係る短期高濃度予測について、予測対象としている6つの事象ごとに影響が最大となる煙源条件を用いて適切に予測を行うこと。

(2) 水質

図書 5-46
5-84

〔ア〕廃棄物ピットの建設に伴う掘削工事が予定されているが、事業区域は埋立地であり、掘削の深度に応じては湧出水の発生が考えられることから、工事の実施による水質について、湧出水が発生する場合には、その影響を踏まえて調査、予測及び評価を行うこと。

(3) 騒音、超低周波音及び振動

図書 5-51
5-62

〔ア〕工事の実施及び計画施設の稼働による騒音及び振動について、音及び振動の伝搬の特性を踏まえ、環境保全についての配慮が特に必要な住居、学校及び病院等を含む地域を対象に、適切に調査地域を設定すること。また、一般に超低周波音は距離減衰が小さく、騒音よりも遠距離まで伝搬することを考慮し、超低周波音の調査地域を改めて適切に設定すること。

(4) 悪臭

図書 5-77 ア 事業区域の周辺地域における調査及び予測地点の設定理由を明らかにすること。

図書 5-81 イ 煙突排出ガスによる悪臭について、臭気指数を予測するとされているが、千葉県環境影響評価技術細目では、悪臭防止法に定める特定悪臭物質の濃度も予測する項目とされていることから、特定悪臭物質の濃度の予測も行うこと。

(5) 土壌

図書 5-88~91 計画施設の稼働に伴う土壌汚染について、ダイオキシン類の濃度を調査及び予測するとされているが、調査及び予測地点に最大着地濃度出現地点付近を加えること。

(6) 廃棄物

図書 2-14 5-100 計画施設の稼働による廃棄物の発生量及び排出量について、ばいじん（飛灰）の処理方法及び処理能力を明らかにした上で、適切に予測すること。

(7) 温室効果ガス等

図書 5-103 ア 一層の二酸化炭素排出削減のため、省エネルギー設備を導入するなど事業場全体の省エネルギー化に努めた設計とした上で、調査、予測及び評価を行うこと。

図書 5-102 5-103 イ 温室効果ガスの排出量の予測に当たっては、最新版の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」を参考とするとともに、各排出量の算定に必要な排出係数や算定式など、具体的な予測手法を準備書に記載すること。